

未来へのメッセージ

豊岡市立田鶴野小学校

六年 西堂 愛

豊岡市を一面の湖にかえてしまった台風二十三号が豊岡にやってきてから一年以上が過ぎました。

あの日、私の家ではげんかんの戸のすき間からチャポチャポと音をたてながら、水が入ってきました。水が少しひいてから、げんかんの戸を開けると、一日市方面に続く田んぼ

は、一面の湖でした。夜でも昼でも、防災無線のサイレンと放送がひんぱんに鳴り続けました。今でさえも、防災無線のサイレンが鳴ると、あの時のことを思い出します。

水がひいてからも、学校には行けないし、家ではそうじをしたり、弟の子守りをしたりと、家の手伝いで大忙しです。

そんな中での唯一のはげましがありませんでした。それは、ボランティアの方々が来て下さった、はげましの手紙や義援金をたくさんいた

だいたりしたことです。この時、日本には、
やさしい人がたくさんいることと、人と人との
助け合いということを実感しました。
バレーボールのチームでも、被害を受けた
チームがあり、チャリティー大会をしました。
また、今年の十月二十日は、「メモリアルデー
」として、学校で集会を開いたり、各クラ
スで勉強したりしました。そして改めて、台
風二十三号の被害をふり返り、そのおそろし
さを実感しました。

今ではもう、私の家では普通の生活を送っ
ています。ですが、豊岡市内では、今でも困
っている人がたくさんいます。私は子どもだ
から、できることは少ないです。でも、私は
できるかぎり精一杯、豊岡市の仲間たちに協
力してあげたいと思います。
心の傷は一生消えないかもしれません
けれど、それなりの努力をして、生きてい
いと思います。そしてあの日のことを忘れ
られないよう、未来に語り継ぎたいです。